

## CFOメッセージ

取締役 兼 代表執行役副社長  
グループCFO

浦田 晴之

# 成長を支える リスクマネジメントと財務戦略

### 「大胆かつ慎重に」グッドリスクを選別し、 「丁寧に取り組む」

オリックスは、金融やサービスを通じて新しい価値を創造し、社会に貢献することを目指した事業活動を行っています。新しい価値の創造には新たなリスクへの挑戦が不可欠であり、そのためにはさまざまなリスクの中から「取るべきリスク」、すなわちグッドリスクの選別が必要です。大胆に戦略を発想してグッドリスクを発掘、その選別は慎重に、取組は丁寧に行う。これがオリックスのリスクマネジメントです。

オリックスのリスクマネジメントの特徴は、以下の点だと考えます。

- 少額案件からトップマネジメントを交えて個別に議論をして、案件の良否を判断する。
- 案件の実行後も回収まで丁寧に取り組む。回収が困難になった場合は、グループの知見を活用して回収の最大化に努める。また、そこから新しいビジネスを見つけることもある。
- トップマネジメントが6つのセグメントではなく、より小さなユニット(事業本部やグループ会社)単位でモニタリングを行う。各ユニットの責任者と月次で議論して適宜指示を行う。

オリックスでは現場からトップマネジメントまで、リスクを丁寧に見る意識を共有しています。成長にはリスクへの挑戦が不可欠であるという考えのもとに、社員一人ひとりがリスクにしっかりと向き合いマネージしています。

オリックスは、資本の使用状況と信用格付けも重視しています。資本の使用は概ね8割程度が適正水準と考えており、信用格付けについてはA格の維持を前提としています。2014年3月期には、ロベコという大型の買収案件がありましたが、このような案件では常に資本へのインパクトをシナリオ分析の中で評価しています。

オリックスの成長を支える土台であるリスクマネジメント力をさらに深め、どのような環境においても安定した成長を実現できるように引き続き努めてまいります。

## オリックスの成長を支える財務戦略

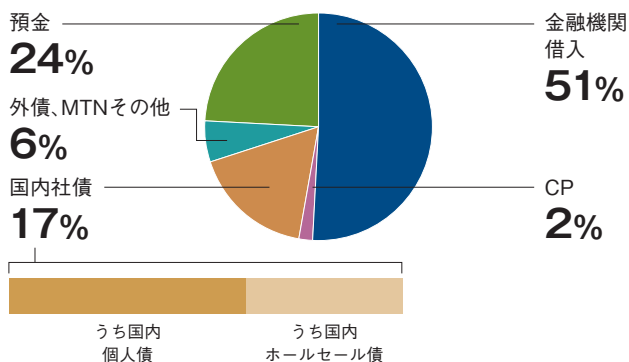
資金調達においては、金融機関からの借入、各種市場における社債の発行、およびオリックス銀行の預金調達を主な手段として、多様な調達源からの長期資金を高い水準で保つことで、安定的かつ強固な財務基盤を維持しています。資金調達を行うにあたり、①資金調達の多様化、②調達期間の長期化および償還時期の分散、③適切な手元流動性の確保等の施策を実施し、財務体質を強化しています。

2014年3月期の成果は次の通りです。

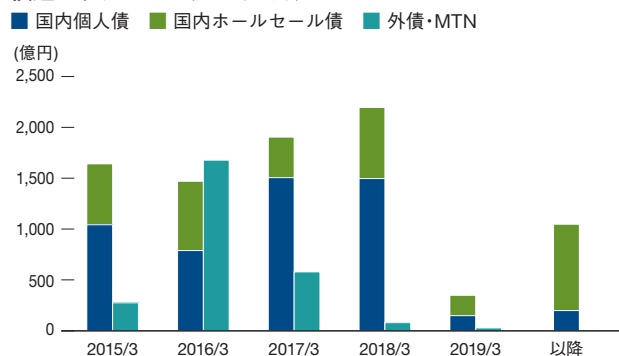
- ① **資金調達の多様化**: 海外での社債発行
- ② **調達期間の長期化および償還時期の分散**: 金融機関借入の長期化、国内長期社債の発行、金融機関借入と社債の償還時期分散によるリファイナンスリスクの低減
- ③ **適切な手元流動性の確保**: 1年以内に償還が予定される社債やメディアム・ターム・ノート(MTN)、コマーシャル・ペーパー(CP)といった市場性短期債務に対する手元流動性カバー率は399%

2015年3月期も①～③の施策を継続して推進します。手元流動性は1兆円程度、手元流動性カバー率は200%程度を目安とします。併せて、アジアの資産増加に合わせた調達の強化を図り、各国の現地銀行からの借入拡大や現地資本市場からの調達を行います。環境エネルギー事業等、拡大を続ける投資事業ではプロジェクトファイナンスの活用を促進します。また投資家層の拡大を図り、調達スプレッドの低減や安定化に努めてまいります。

資金調達の内訳 (2014年3月末、ABS・CMBSを除く)

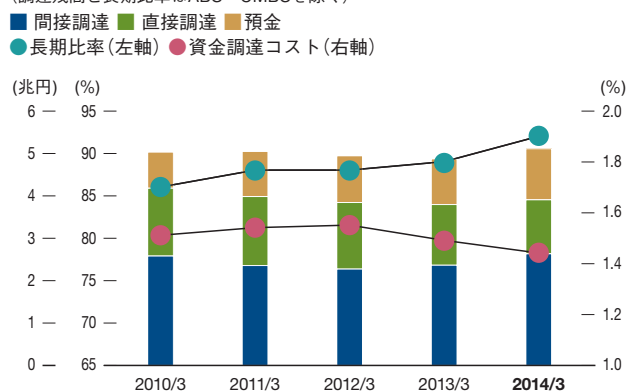


償還スケジュール(2014年3月末)



## 調達残高内訳・長期比率・コストの推移

(調達残高と長期比率はABS・CMBSを除く)



## 市場性短期債務に対する手元流動性

